中間報告書

補助事業名	Equity（公正）& Justice（正義）を軸としたソーシャルアートコーディネーターの人材育成							
事業期間	令和5年4月7日～令和6年2月29日			大学名	大阪公立大学			
実施概要	本事業は、Equity（正義） & Justice（公平）を軸に、大阪の社会的課題の克服・解決をめざすアート・コーディネーター等の人材育成を目的とする。大阪・関西では、環境問題（公害など）、日雇い労働者の貧困と孤立、LGBTQや在日・移民の差別など大都市・大阪固有の深刻な社会的課題に対応するアートNPOなどの蓄積は顕著である。しかし属人的な才能に頼る部分が大きく、次世代育成、ネットワーク形成に課題があり、本事業では、持続可能性に力点をおきたい。 また、近時アート業界のハラスメントが顕在化し、社会的課題と認識され始めた。アートNPOの後継者不足の背景にある業界の構造的抑圧や搾取にも目を向け、Equity（正義） & Justice（公平）、抑圧や搾取に目を向けるAOP（Anti-Oppressive Practice 反抑圧的実践）をベースにアプローチしていく。 効果として、行政・大学・地域が連携し、アートとAOPの知識や技術を備えた次世代を育成するとともに、事業終了後、都市経営研究科の職業実践力育成プログラム（BP）としての継続、持続可能なプラットフォーム（実務支援と相談窓口）の設立をめざし、ネットワークを形成していく。							
	※ 詳細〈講座名，講師名，コマ数，公演名，会場名，公演回数等〉は下部の各活動欄に記入してください。							
共催者名・後援者名・協賛者名等とその役割	共催：西淀川子どもネット（実践・場づくり）／NPO法人こえとことばとこころの部屋cocoroom（リサーチ＆実践・場づくり）／一般社団法人こどまっぷ（実践・場づくり） 連携：大阪市経済戦略局文化部文化課（事業全体＜広報協力・Café・芸術祭にコメンテーターとして参加等＞）、大阪アーツカウンシル（事業全体＜講師派遣等＞）							
全活動合計	計画	実績	差	計画と実績の差異理由				
来場者	378	404	26	本事業の関心が高く、来場者については、実績が計画を上回った。育成対象者については、主に基礎講座2の受講者が1回あたり平均3人の欠席があったことで、実績が計画を下回った。社会人の仕事都合などでの欠席があり、後日録画ビデオ視聴の機会を提供しフォローした。				
育成対象者	261	231	−30					
育成対象者属性	属性	学生	実演家	文化施設職員	公共機関職員	民間団体職員	民間企業職員	その他
	人数	43	14	11	63	43	33	24
育成対象者具体的な職業	（ソーシャルワーク系） ソーシャルワーカー4名〔公務員、理学療法士、教育委員会ソーシャルワーカー、会社員〕、地域コーディネーター2名〔地域おこし協力隊、大学職員〕、会社員1名（まちづくり系） （アート系） 大学生4名、大学院生2名、行政職員2名〔地方自治体文化担当職員、文化施設職員〕、大学職員1名、高校教員１名、アーティスト1名、アートコーディネーター2名〔民間企業、NPO〕、個人事業主2名、会社員2名（アート系）							
アートマネジメント人材育成目標	申請時				達成状況			
	1)本事業では、受講生過半を占めるソーシャルワーカーや、学生らに対しては、アートマネジメント能力の基礎知識、技術を学び、自立してソーシャルアートを企画できる人材育成を目指す。 2)加えて、社会課題の深刻な地域・空間で業務を行うことを念頭に置いていることから、ソーシャルワーク的な手法、思考方法についての専門性を高めることに重点を置く。特に、根本的な抑圧構造を捉えるAOPのアプローチに着目し、社会課題の解決、のみならず自分たちの働く業界から搾取やハラスメントを一掃する問題意識、マインドを持つ人材育成を行う。現場実践では、課題を克服・解決する知識、技術を身につけることはむろん、そのプロセスがフェアであったかどうか、どのような社会を目指すのかという意識で参加し、それを言語化できる能力を育てる。 3)大阪公立大学は、社会人大学院・都市経営研究科、文学研究科で、アート系、ソーシャルワーク系の教員が教鞭をとり、アートマネージャー、ソーシャルワーカーやその志望者などが大学院生として多く在籍する。これらの大学の人的資源を活かして、事業終了後、都市経営研究科の職業実践力育成プログラム（BP）としての継続、持続可能なプラットフォーム（実務支援と相談窓口）の設立をめざし、ネットワークを形成していく。				基礎講座が9月末時点で終了し、リサーチ、実践＆場づくりのいくつかは9月末時点で開始しており、今回中間報告することになった。 基礎講座は、1ソーシャルワーク、2アートマネジメントからなるが、1では、受講生のAOP、ソーシャルアートの関心や関与を概して高めることができた。2では、「身近な現場で、受講前には思いつかなかったような新たな行動をはじめた、はじめようと思っている」とした受講生が基礎講座1受講終了時は、39%だったが、基礎講座2受講終了時には76%を占めた。受講生が主体的に関わろうとする変化がうかがえる結果となった。 リサーチ、実践＆場づくりについては、初回のオリエンテーションなどで、受講生は、まちの歴史やプロジェクト概要を理解することができた。また、地域の負の歴史をアートで掘り下げる意味を考えたいとコーディネーターや受講生から問題提起があり、そうした課題を共有できた。また、各現場でアートをやる意義を考えたり、各受講生にとってのソーシャルアートがなにかなどを考える場となっていた。 一方で、ソーシャルアートの一層の理解を深めること、Equity（公正）& Justice（正義）に争点化した当該事業のなかでの各受講生の学びの位置づけ、人材育成の意義などへのフィードバックを、10月以降の課題としたい。			
事業の社会的な役割、効果	申請時				達成状況			
	本受講によりそれぞれの職場でソーシャルアートの企画に挑戦したり、新事業や場づくりの立ち上げ支援につながる。また、大阪・関西のソーシャルアートコーディネーター（アーティスト含）人材となり、社会課題解決に貢献することも期待できよう。彼らは、AOPとアートの視点を社会に芽吹かせる種として社会変革の役割を担う。本事業3年間終了後、「EJ Café」のコミュニティ機能は、プラットフォームとして存続し、市民社会の財産となる。				本事業受講生24名のうち、18名が現職者である。うち現職者2名が主催者である社会人大学院都市経営研究科博士前期課程に2024年度進学を決めた。学生1名が他大学大学院博士前期課程アートマネジメントコースに進学を決めた。本プログラムがアートコーディネーター人材育成を目的とする大学院進学のための入口となる成果が確認できた。			
事業に関して学会発表、メディアでの掲載実績や予定	プロジェクトチーム代表吉田隆之が、2023年12月に、日本アートマネジメント学会第25回全国大会で、「社会人大学院のアートマネジメント教育 ―”記憶の地図”を巡るアートプロジェクトを事例に」を発表予定である。 実践＆場づくりプロジェクト「貧困と孤独と表現～釜ヶ崎における協働の自立支援・就労準備支援表現プログラム～」が、ドキュメンタリー新社という映像制作会社から、長期密着取材を受ける。来年2月末にNHKワールド(BS1)「フロントランナーズ」という番組で放送予定。							
事業で得た課題や経験、今後の活用方法	本事業では、アートマネジメントの基礎知識を学ぶニーズもあるが、アートコーディネーターのプロフェッショナルで、ソーシャルワークの専門性に関心を持たれる方も少なくない。受講生の動機、目標を改めて確認しながら、事業を進めていきたい。 Equity（公正）& Justice（正義）に争点化した当該事業のなかで、各受講生の学びの位置づけ、人材育成の意義などへのフィードバックについては、意識して取り組みたい。 評価に力点を置いているのが本事業の特徴であることから、受講生の学び、成長を言語化し、定性的・定量的な事業の成果を把握をしていく。							
担当者所属・氏名	公立大学法人大阪 事務局 学術研究支援部 研究推進課 十亀 紀彦		電話	06-6605-3614				
			E-mail	info@eandjart.jp				

活動①

講座名 企画名	基礎講座1 ソーシャルワーク
講師名 出演者名	第1回：児島亜紀子（大阪公立大学現代システム科学研究科教授） 第2回：奥山理子（みずのき美術館キュレーター、Social Work/Art Conferenceディレクター） 第3回：「アート/ケア/文化政策」研究会　風間勇助(奈良県立大学地域創造学部講師)、南田明美（静岡文化芸術大学文化政策学部講師）、齋藤梨津子（早稲田大学大学院博士課程）

日時	第1回：2023年7月6日18時30分～21時 第2回：2023年7月13日19時～21時 第3回：2023年7月20日19時～21時	コマ数	3

会場・教室	大阪公立大学梅田サテライト 第1回・第2回：6階106教室 第3回：6階文化交流センター・ホール		計画	実績	差
		来場者	90	100	10
		育成対象者	60	57	−3

育成対象者属性	属性	学生	実演家	文化施設職員	公共機関職員	民間団体職員	民間企業社員	その他
	人数	12	3	3	17	10	7	5

実施概要	本事業の人材育成目標は、ソーシャルワーク的な手法、思考方法、とくにAOPについての専門性を高めることに重点を置く。基礎講座1は、3回の講座（①反抑圧的ソーシャルワーク実践（AOP）の基礎を学ぶ、②ソーシャルワークから学ぶこれからの芸術実践、③伴奏者のための『脱いい子』ワークショップ～『ケアする/される』を演じて考える）からなり、AOP、ソーシャルアートの基本知識を得て、関心や関与を深まることを目的とする。1回目の講座では、児島亜希子講師から、ソーシャルワークの文脈で発展してきたAOPについての沿革、理論的・実践的特徴、AOPの基本的考え方と枠組み、日本の女性支援におけるAOP実践の可能性について学んだ。2回目の講座では、奥山理子講師より、ソーシャルアートの展覧会・アートプロジェクトのキュレーションや、相談窓口の実践などの経験と知見を伝えていただいた。とくに後者は、我々の目標とする持続可能なネットワークづくりにもつながるものであった。また近年始められた「ケアまねぶ」という活動は、AOPとも接点を持つテーマだった。3回目は、知識として得たAOPを、自身の問題として咀嚼していく演劇的ワークショップを実施した。AOPとアートを自らの実践を通して考えてきた3人の若手研究者、風間勇助、南田明美、斎藤梨津子講師をコーディネーターとして招き、ワークショップを通して、参加者は、身の回りでおかしいと思うことから自身に引き付けてAOPを考え、声をあげてみたときに、安心して伴走してもらえる仲間は誰なのかについてもイメージを膨らませた。

アートマネジメント人材育成目標	申請時	達成状況
	本事業の人材育成目標は、ソーシャルワーク的な手法、思考方法、とくにAOPについての専門性を高めることに重点を置く。本講座ではAOP、ソーシャルアートの基本知識を得て、関心や関与が深まることを効果として期待した。	「ソーシャルワークやAOP／ソーシャルアートについて授業外でも調べたり考えたりした」「身の回りの社会や自分が関わっている現場で起きている格差・抑圧・搾取などの存在に気づいた」という変化を経験した方が、それぞれ約70%、60%と割合としては多かった。一方で、「ソーシャルワークとアートの関係について理解が深まった」とした受講生は半数にとどまった。AOP、ソーシャルアートの関心や関与は概して高まったといえる。

活動で得た課題や経験、今後の活用予定	AOP、ソーシャルアートの関心や関与は概して高まったといる。ソーシャルワークとアートの関係について理解については、現場のプログラムなどで補っていきたい。AOPについては、今後、個別の活動ごとに、リフレクションシートなどを通して、常に意識化するとともに、理論の理解を深めていけるようにしたい。

活動②

<table>
<tr><td>講座名
企画名</td><td colspan="8">基礎講座2 アートマネジメント</td></tr>
<tr><td>講師名
出演者名</td><td colspan="8">①:沼田里衣(大阪公立大学大学院文学研究科准教授)
②:菅原真弓(大阪公立大学大学院文学研究科教授)
③:吉田隆之(大阪公立大学大学院都市経営研究科准教授)、榊原節子(榊原節子建築研究所代表、大阪公立大学大学院都市経営研究科博士前期課程2年)
④:宮崎優也(大阪アーツカウンシル統括責任者)
⑤:櫻田和也(NPO法人記録と表現とメディアのための組織、大阪公立大学都市科学・防災研究センター特任講師)
⑥:中川真(大阪公立大学都市科学・防災研究センター特任教授)</td></tr>
<tr><td>日時</td><td colspan="3">①:2023年7月27日19時～21時②:2023年8月3日19</td><td>コマ数</td><td colspan="4">6</td></tr>
<tr><td rowspan="3">会場・教室</td><td colspan="3" rowspan="3">大阪公立大学梅田サテライト①②③④⑤⑥:6階106教</td><td></td><td>計画</td><td>実績</td><td colspan="2">差</td></tr>
<tr><td>来場者</td><td>180</td><td>164</td><td colspan="2">−16</td></tr>
<tr><td>育成対象者</td><td>120</td><td>100</td><td colspan="2">−20</td></tr>
<tr><td rowspan="2">育成対象者属性</td><td>属性</td><td>学生</td><td>実演家</td><td>文化施設職員</td><td>公共機関職員</td><td>民間団体職員</td><td>民間企業社員</td><td>その他</td></tr>
<tr><td>人数</td><td>18</td><td>5</td><td>6</td><td>28</td><td>18</td><td>14</td><td>11</td></tr>
<tr><td>実施概要</td><td colspan="8">基礎講座「アートマネジメント」は、① 社会的課題の発見 ② 具体的課題の調査/分析 ③ 企画と準備 ④ 現場における実践 ⑤ 評価 ⑥ 記録とアーカイビングの6つの段階からなる。アートマネジメントに関する必要な知識・技術を、経験と勘でなく、体系的・理論的に身につけられるようにした。本講座では、① 社会的課題の発見 ② 具体的課題の調査/分析といった表面に現れにくい段階に力点をおいたのが特徴である。②では、沼田里衣講師から障害者との音楽実践でぶつかった課題に真摯に向き合い、同じ地平とは？という視点で、ときにはAOP的な発想を交えながら、分析・企画に導いたプロセスがつぶさに語られた。③では、菅原真弓講師から、反対運動すら起きながらも、小さな町で小さな美術館を奮闘しながら立ち上げ、展覧会の企画・展示を工夫しながら、地域に少しずつ定着し、開館20年にまで至った様子が語られた。④では、吉田隆之・榊原節子講師から、都市経営研究科「アートプロジェクト論」で取り組まれた-”記憶の地図”を巡るアートプロジェクトでの社会人学生によるアマチュアによる実践が紹介された。社会人がそれぞれの得意分野をいかし、地域住民が積極的に参加し、会場の喧騒が特徴だったり、地域の記憶の継承ができたり、日本の新たなソーシャルアート理論が生まれる可能性が示唆された。⑤では、宮崎優也講師から、アーツカウンシルの経験に基づいた評価のあり方が提示され、議論された。⑥では、櫻田和也講師から、国内のアーカイブの歴史を切り開いてきた経験に裏打ちされながら、その理論を中心に骨太に語られた。最終回「これからのアートについて」では、中川眞講師から、①「社会的課題の発見」の趣旨を踏まえながら、コロナ禍でアートの意義が問われたこと、アートとケア、弱さの力、アートとジェントリフィケーションなどの問いが受講生に投げかけられた。受講生同士のディスカッションでは、分からないことを言える空間作りの必要性の指摘があるなどAOPを意識した発言もあり、基礎講座をそれぞれに振り返る最終回となった。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">アートマネジメント人材育成目標</td><td colspan="4">申請時</td><td colspan="4">達成状況</td></tr>
<tr><td colspan="4">本事業の人材育成目標の一つは、アートマネジメント能力の基礎知識、技術を学び、自立してソーシャルアートを企画できる人材育成を目指した。本講座では、アートマネジメントの基本知識を得て、関心や関与が深まることを効果として期待した。</td><td colspan="4">「ソーシャルアートやアートマネジメントについて授業外でも調べたり考えたりした」とした受講生が76%を占めた。「身近な現場で、受講前には思いつかなかったような新たな行動(ささいな振る舞いの変化を含む)をはじめた、はじめようと思っている」とした受講生が基礎講座1受講終了時は、39%だったが、基礎講座2受講終了時には76%を占めた。受講生の主体的な関わりに変化がうかがえる結果となった。</td></tr>
<tr><td>活動で得た課題や経験、今後の活用予定</td><td colspan="8">受講生が主体的な関わろうとする変化が、後期の実践プログラム参加者に対しては、どのように変化していくのか引き続き注目してきたい。また、基礎講座、リサーチからなる前期プログラム参加者に対しても、EJ Café等で、各自の職場等でどのように活用していくのかフォローしていきたい。</td></tr>
</table>

活動③

講座名 企画名	リサーチ1「高齢化と多様性と孤立の社会で」						
講師名 出演者名	上田假奈代（アートコーディネーター：NPO法人ココルーム代表）、松尾真由子（プログラムコーディネーター）、吉田隆之（オーガナイザー・評価：大阪公立大学准教授）						
日時	①：2023年8月19日14時～17時 ②：2023年8月20日14時～17時 ③：2023年8月20日19時～21時 ④：2023年9月12日10時～12時 ⑤：2023年9月29日15時～18時 ⑥：2023年9月30日14時～16時			コマ数	6		
会場・教室	①②⑥：太子老人憩いの家 ③④⑤：ココルーム				計画	実績	差
				来場者	44	54	10
				育成対象者	32	32	0
育成対象者属性	属性	学生	実演家	文化施設職員	公共機関職員	民間団体職員	民間企業社員	その他
	人数	7	3	0	3	8	4	7
実施概要	NPO法人ココルームは大阪市西成区の日本最大の寄せ場である釜ヶ崎（通称）に拠点をおいて、当事者（主に単身男性居住者）間のコミュニケーションや高齢化に伴う孤立化といった問題に、アートや表現を通して対処している組織である。8月20日（日）14時～17時オリエンテーションを開催した。自己紹介、上田假奈代代表の「ココルーム/釜ヶ崎芸術大学」の紹介、質疑応答があった。受講生は釜ヶ崎芸術大学の計4回のプログラムから2回を選択して参加した。受講生は、現場のコーディネーターがどのようなまなざしで社会課題に向き合っているか、現場でどのようなコミュニケーションがとられていたのかを、つぶさに観察し、毎回レポートを提出した。当該レポートをもとに、代表者を交えた振り返りの会で、成果を発表し、確認した。							
アートマネジメント人材育成目標	申請時				達成状況		
	社会的課題の洞察力を高めたり、釜ヶ崎への差別的偏見が一掃されることを期待した。				釜ヶ崎芸術祭大学への参加、振り返りをへて、受講生は、自身の釜ヶ崎への偏見を内省し、ココルームのアート活動の意義を自身の体験に基づく言葉で紡ぐことができた。なぜ社会課題とアートが結びつくのかなどの議論を掘り下げ、たとえば、アートによってダイナミックな変化がおこる醍醐味、思いもよらず生まれてくるエネルギーなどが指摘された。他方で、限定された時間内では釜ヶ崎における差別の内実などへの理解には、なかなか到達しなかったように見える。		
活動で得た課題や経験、今後の活用予定	釜ヶ崎への自己の偏見を内省したことにAOP的視点をみることができ、社会課題と結びつくアートの意義を掘り下げた経験が、受講生自らアートを企画する原動力となることが期待できる。						

活動⑤

講座名 企画名	リサーチ3「多様な共生のありかた」						
講師名 出演者名	石井絢子（HAPS／アートコーディネーター）、中川眞（コーディネート）、金崎亮太（プログラムコーディネーター）、吉田隆之（オーガナイザー：大阪公立大学准教授）						
日時	2023年9月28日19時～21時			コマ数	3コマのうちの1コマ		
会場・教室	大阪公立大学梅田サテライト108教室				計画	実績	差
				来場者	11	11	0
				育成対象者	8	7	−1
育成対象者属性	属性	学生	実演家	文化施設職員	公共機関職員	民間団体職員	民間企業社員	その他
	人数	1	0	0	2	1	2	1
実施概要	京都市下京区、南区には元同和地区（崇仁）と在日コリアンの集住地区（東九条）が広がっている。2023年10月には京都市立芸術大学がここに移転することから、地域は大きな開発の波に巻き込まれ、ジェントリフィケーションの懸念が高まり、地域住民に少なからず動揺が起こっている。一般社団法人HAPS（東山アーティスト・プレイスメント・サービス）では、石井絢子アートコーディネーターが、その状況を受けて、アートを通した住民のアイデンティティの再確認、確立とコミュニティの持続に取り組む。1回目は、石井講師から、講師の自己紹介、まちの歴史、アート活動を行うこととなった経緯、現場から見える差別や共生の意味、その意義などのレクチャーが行われた。その後、受講生とのディスカッションを行い、負の歴史をアートで掘り下げる意味や、内側からの声に寄り添い、芸術実践をやっていく「自生的なアート」といったアートの特徴が語られた。							
アートマネジメント人材育成目標	申請時				達成状況		
	本活動の参加者、そういう新しいマネジメントの動向を学ぶことができる。また、被差別と在日という関西特有の歴史にも触れることとなり、都市の成り立ちへの理解が深めることを目標とした。				被差別と在日という関西特有の歴史、まちの歴史、そこでアートをやる意味とコーディネーターの役割などを受講生は知識として理解できた。		
活動で得た課題や経験、今後の活用予定	基礎講座等で得た知識としての理解を、現場のリサーチを経て、受講生自身が咀嚼しそれぞれの職場で今後どう活用していくのかまで考えられるように、フォローしていきたい。						

活動⑥

講座名 企画名	実践・場づくり1 「そこにある声を聞きなおす～公害から環境共生へ～」							
講師名 出演者名	松岡咲子（西淀川子どもセンター／アートコーディネーター）、村田のぞみ（アーティスト）、金崎亮太（プログラムコーディネーター）、吉田隆之（オーガナイザー・評価：大阪公立大学准教授）							
日時	2023年9月29日19時～21時				コマ数	6コマのうち1コマ		
会場・教室	オンライン					計画	実績	差
					来場者	10	10	0
					育成対象者	7	3	−4
育成対象者属性	属性	学生	実演家	文化施設職員	公共機関職員	民間団体職員	民間企業社員	その他
	人数	0	0	0	1	2	0	0
実施概要	「そこにある声を聞きなおす～公害から環境共生へ～」のオリエンテーションを行った。 まずは、受講生、アーティスト村田、アートコーディネーター松岡らの自己紹介をおこなった。つぎに、松岡から西淀川の公害の歴史、会場となる福町や、西淀川こどもセンター、あおぞら財団など関係団体の説明がされた。さらに、松岡から今後の取り組み、村田からプロジェクトの企画案が話された。 10月9日に福町フィールドワーク、11日に、福町盛り上げ隊ミーティング、22日公害問題語り部ヒアリング、28日ワークショップ、11月4日、5日みてアートを実施する。							
アートマネジメント人材育成目標	申請時					達成状況		
	当該事業を通して、アートマネジメントの全6プロセスをリアル体験で学び、1年目は、スキルを盗むインプットに力点を置いた。初回のオリエンテーションは、地域の歴史、事業の全体像を掴んでもらうことねらいとした。					西淀が公害の歴史を持つことを知る受講生がいないなか、地域の歴史や事業の全体像を概ね掴んでもらうことができた。また、コーディネーターなどから、地域の負の歴史をアートで掘り下げる意味を考えたいと問題提起があり、受講生とも共有できた。		
活動で得た課題や経験、今後の活用予定	初回のオリエンテーションで学んだ、地域の歴史、事業の全体像をふまえて、受講生は当該プロジェクトに関わっていく。受講生の動機、目標を確認してもらい、当該プロジェクトのでの各自の成果につなげていくよう主催者としてもフォローしていきたい。アートマネジメントの基礎知識を学ぶことであったり、ソーシャルワークの専門性を高めることであったり、受講生の動機、目標を改めて確認し、10月以降の事業を展開していく。							

活動⑦

講座名 企画名	実践・場づくり2 貧困と孤独と表現～釜ヶ崎における協働の自立支援・就労準備支援表現プログラム～							
講師名 出演者名	上田假奈代（アートコーディネーター：NPO法人ココルーム代表）、松尾真由子（プログラムコーディネーター）、吉田隆之（オーガナイザー・評価：大阪公立大学准教授）							
日時	2023年9月30日11時～13時				コマ数	8コマのうち1コマ		
会場・教室	あいりん臨時夜間緊急避難所、ココルーム（大阪市西成区）					計画	実績	差
					来場者	6	7	1
					育成対象者	4	3	−1
育成対象者属性	属性	学生	実演家	文化施設職員	公共機関職員	民間団体職員	民間企業社員	その他
	人数	2	1	0	0	0	0	0
実施概要	釜ヶ崎の日雇い労働者に対して、グループワークによる気づきやコミュニケーションスキル・就労意欲の向上などを目的とした定期的な就労準備表現プログラムを開発し、企画・実践するプロジェクトである。当該事業の初回であり、オリエンテーションと、プロジェクトの実施場所であるあいりん臨時夜間緊急避難所（通称シェルター）、「ひと花センター」、「どーん！と西成」を見学した。オリエンテーションでは、自己紹介、シェルターなどプロジェクト実施場所の説明、今回のプロジェクトの趣旨、内容の紹介が行われた。							
アートマネジメント人材育成目標	申請時					達成状況		
	プロジェクト初回のオリエンテーションと実施場所見学で、事業の概要を理解することをねらいとした。					シェルターでの表現活動について、受講生は、実施場所を見学することで、プロジェクトのイメージを体感、共有することができた。		
活動で得た課題や経験、今後の活用予定	初回のオリエンテーションで理解したプロジェクト実施場所の現場の様子、事業の全体像をふまえて、受講生は当該プロジェクトに関わっていく。受講生の動機、目標を確認してもらい、当該プロジェクトの各自の成果につなげていきたい。							

活動⑨

講座名 企画名	EJ Café							
講師名 出演者名	久保田テツ（コーディネート：大阪音楽大学准教授）、金崎亮太（プログラムコーディネーター）、吉田隆之（オーガナイザー、大阪公立大学准教授）、浅野京子（ライフキャリア教育ラボ）、大阪市文化課職員							
日時	2023年7月30日14時～17時				コマ数	3コマのうちの1コマ		
会場・教室	大阪府立江之子島文化芸術創造センター地下スペー					計画	実績	差
					来場者	23	19	−4
					育成対象者	20	13	−7
育成対象者属性	属性	学生	実演家	文化施設職員	公共機関職員	民間団体職員	民間企業社員	その他
	人数	1	1	0	6	3	2	0
実施概要	「EJ Café」は、受講生同士のコミュニケーションや意見・情報交換を目的に計3回開催予定のうち1回を開催した。1回目は7月30日に開催し、受講生13名、関係者7名が計20名が参加した。3時間のうち2時間は、小グループに分かれ、自己紹介、講座の振り返り、もやもやしたことなどを自由にディスカッションした。残りの1時間は車座に座り、受講生がアート、福祉、まちづくりなど様々な関心を持つことを確認したうえで、受講動機、講座に期待することなどを語り合った。							
アートマネジメント人材育成目標	申請時					達成状況		
	初回は、小グループに分かれて、基礎講座で学んだこと、とくにAOPなどについて、生じたもやもやや悩みを解消することや、自己紹介などを通して、親睦を深めたり、緩く息抜きとなる場となることを企図した。					初回に関しては、親睦を深める場となることに重きがおかれ、講座の振り返りなどがやや不十分に終わった。		
活動で得た課題や経験、今後の活用予定	やや一方通行になりがちなレクチャーが続く中で、親睦を深める場をつくることができた。今後は、少しずつでよいので、EJ Cafeが受講生同士のネットワークづくり、ひいては、相談窓口の開設につながっていくことを期待したい。また、受講生が講座を振り返り、気づきやもやもやを確認する場としても機能させていきたい。こうした気づきやもやもやを、評価プログラムと連携して観察記録を取り、ブックレット、アーカイブとしてまとめていく。							

活動⑪

講座名 企画名	ブックレット第1巻							
講師名 出演者名	デザイナー・仲村健太郎氏（Studio Kentaro Nakamura）、松尾真由子（プログラムコーディネーター）、吉田隆之（オーガナイザー）							
日時	2023年9月21日19時～21時				コマ数	5コマ（程度）のうち1コマ		
会場・教室	大阪公立大学梅田サテライト108教室					計画	実績	差
					来場者	7	12	5
					育成対象者	5	8	3
育成対象者属性	属性	学生	実演家	文化施設職員	公共機関職員	民間団体職員	民間企業社員	その他
	人数	1	1	1	3	0	2	0
実施概要	本年の活動の記録集を、参加者ともに編集、制作を行う。活動のできごとをA面に、受講生の気づき、変化をB面に編集していくこととした。受講生の気づき、変化を捉えることは、アーカイブや評価にも関連し、後期プログラム参加者全員で、編集、制作をおこなうこととした。 9月21日仲村氏による、「ブックレット」制作に向けたレクチャーを開催し、本は何のために作るのかなど、ブックレット制作の一般的なノウハウや、今回のブックレット制作へのヒントなどが語られた。ワークショップでは、これまでの講座を振り返り、受講生の気づきなどを確認した。							
アートマネジメント人材育成目標	申請時					達成状況		
	ブックレットを制作を何のために作るのか、どういうものを作るのかを参加者で共有することを目標とした。					前期プログラムの基礎講座などでインプットしてきたことを、受講生がそれぞれに受け止め、様々な気づきがある様子がうかがえた。ブックレットの制作のイメージを共有することができた。		
活動で得た課題や経験、今後の活用予定	今回の講座で得た気づきをブックレット制作の中で言語化し、受講生自身が、この事業の関わりを客観視し、成果を確認する場となることを期待したい。ブックレットは、EJ　Café、評価などで収集した受講生の気づき、もやもやなどを記録していく事業でもあり、アーカイブの一部ともなる。							

活動⑫

<table>
<tr><td>講座名
企画名</td><td colspan="8">事業評価</td></tr>
<tr><td>講師名
出演者名</td><td colspan="8">熊谷薫（評価コーディネーター）、石幡愛（評価コーディネーター）、金崎亮太（プログラムコーディネーター）、吉田隆之（オーガナイザー）</td></tr>
<tr><td>日時</td><td colspan="3">①：2023年6月30日19時～21時
②：2023年7月24日19時～21時</td><td>コマ数</td><td colspan="4">5コマ（程度）のうち2コマ</td></tr>
<tr><td rowspan="3">会場・教室</td><td colspan="3" rowspan="3">①：大阪公立大学梅田サテライト108教室
②：オンライン</td><td></td><td>計画</td><td>実績</td><td colspan="2">差</td></tr>
<tr><td>来場者</td><td>7</td><td>27</td><td colspan="2">20</td></tr>
<tr><td>育成対象者</td><td>5</td><td>8</td><td colspan="2">3</td></tr>
<tr><td rowspan="2">育成対象者属性</td><td>属性</td><td>学生</td><td>実演家</td><td>文化施設職員</td><td>公共機関職員</td><td>民間団体職員</td><td>民間企業社員</td><td>その他</td></tr>
<tr><td>人数</td><td>1</td><td>0</td><td>1</td><td>3</td><td>1</td><td>2</td><td>0</td></tr>
<tr><td>実施概要</td><td colspan="8">本年度は参加型評価の手法を用い、就労支援にとどまらない、当該事業のアートマネジメント人材像を示し、育成事業の新たな評価モデルを構築し、「大学における芸術文化推進事業」の発展・普及に寄与するものをめざす。1）事業開始時、講座開始前に、事業推進プロジェクトチームのメンバーで、評価ワークショップを実施し、ロジックモデルを整理し、事業趣旨・仮説を共有する。事業終了時に、仮設のアップデートを行い、初年度の取り組みの成果の総括を行う。2）受講生の人材育成の成果を定性的・定量的に把握するため、3つの場を用意する。①リフレクション(振り返り)シートの記入、②「E&J Café」での観察記録、③受講者へのレクチャープログラムである。その際、文化事業評価の第一人者であり、実績がある熊谷薫・石幡愛の監修のもと、もっとも重要な気づきを記入するというMSC(Most Significant Change)という手法を利用して、受講生の変化を主に質的に把握する。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">アートマネジメント人材育成目標</td><td colspan="4">申請時</td><td colspan="4">達成状況</td></tr>
<tr><td colspan="4">1）事業開始時、講座開始前に、事業推進プロジェクトチームのメンバーで、評価ワークショップを実施し、ロジックモデルを整理し、事業趣旨・仮説を共有する。
2）受講生の人材育成の成果を定性的・定量的に把握するため、①リフレクション(振り返り)シートの記入、②「E&J Café」での観察記録を実施する。</td><td colspan="4">事業開始時、講座開始前に、事業推進プロジェクトチームのメンバーで、評価ワークショップを実施し、ロジックモデルを整理し、事業趣旨・仮説（人材育成、大阪の課題解決、ネットワーク構築）を共有した。基礎講座終了後、受講生にリフレクション(振り返り)シートの記入を求め、「E&J Café」での観察記録などで、AOPへの関心は深まったが、理解が半数にとどまるなど、受講生の講座の理解度、気づきを把握した。評価プログラムに参加を希望する受講生は、「E&J Café」の前のレクチャーで、観察記録の取り方などを学んだ。</td></tr>
<tr><td>活動で得た課題や経験、今後の活用予定</td><td colspan="8">事業進捗のいくつかの時点で、受講生の気づきなど成果を定点観測し、事業終了時の評価につなげていく。こうした受講生の気づきなどの観察は、ブックレット制作にも活用される。受講生に評価活動に参加してもらい、受講生にも評価軸を持ち、事業に参加してもらったり、評価スキル向上につなげてもらう。</td></tr>
</table>